

令和5年度第1回尼崎市ユースワーク推進部会 議事録（要旨）

開催日時	令和5年9月29日（金） 午後3時30分～午後5時
開催場所	Web会議（アマブラリ3階 活動支援室2）
出席委員	両角部会長、竹田副部会長、赤井委員、今村委員、川野委員、李委員
議題	(1) 副部会長の選出について (2) ユースワークの視点を取り入れた取組の進捗状況（施策評価）について (3) ユース交流センターの運営状況について
資料	・資料1 ユースワークの視点を取り入れた取組の進捗状況（施策評価）について ・資料2 令和4年度の取り組み及び令和5年度の運営について

開会

- 会議成立の確認、配付資料の確認、傍聴報告、委員自己紹介

1 副部会長の選出について

部会長

副部会長の選出につきましては、尼崎市青少年協議会条例第9条の規定により部会長が指名するとされています。私としては、引き続き竹田委員にお願いしたいと考えておりますが、竹田委員、よろしいでしょうか。

委員

ご指名ありがとうございます。このような素晴らしいメンバーの中でやらせていただけること、ありがたく思います。引き続きよろしくお願いします。

部会長

ご承諾いただきありがとうございます。また、この後の議事の進行に関してもお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

委員

承知いたしました。

2 ユースワークの視点を取り入れた取組の進捗状況（施策評価）について

- 資料1及び補足資料に基づき、事務局から説明

委員

ただいま事務局からユースワークの視点を取り入れた取組の進捗状況に関して説明をいただき、

尼崎市の施策評価でも取り上げている「ユースワークの推進に係る取組の成果と課題」について部会意見をいただきたいとのことでした。これに関してご意見やご質問があれば発言をお願いします。

部会長

市のユースワークの位置付け等をご説明いただき、全体像が見えてよかったですと思います。ユースワークの取組の成果と課題に関してですが、私は、このような認識に基づいてここまで取り組んでいる自治体は全国的にも珍しく、素晴らしい取組だと評価しています。一方、尼崎市のまちづくり基本計画で定められている子ども・子育て支援の施策目標の中で、「子どもたちの生きる力をはぐくむ環境づくり」にユースワークの推進が紐づけられています。この生きる力というのは、文科省の学習指導要領に謳われている目標と同じ文言になっています。そうすると、学校教育的な自立感や生きる力の育成が、果たしてユースワークの目指すものなのか、何か違うのではないかとの違和感を感じます。おそらく尼崎市の取組はその先を行っていると思われるので、いずれ齟齬が生じてくる可能性があるのではないかと思います。つまり、ユースワークの取組は、生きる力の育成とは異なる目標感を持って取り組むべきもので、その辺のテコ入れをしていかないと、いつかずれていくような気がしました。将来、ユースワーク推進部会の構成員が変わり、生きる力の育成を重視する委員がどんどん入ってくると、そちら側にシフトしていくことも起こり得ます。自己肯定感や自立感は、ユースワークの取組の上ではあくまで副次的なものであり、もっと手前の段階で、信頼できる大人がいるとか居場所があると感じられるとか、地域に影響力が発揮できていると感じられるような成果指標が入ってもいいのではないかと思いますし、それらをさらに抽象化した目標観が施策目標として今後、どこかの段階で求められるのではないかと思います。

委員

私たちは子どもの社会的居場所づくりから始める中、自立支援型シェアハウスの運営にも取り組んでいます。自立に向けてという部分がどのように反映されているのかが気になりました。自己肯定感を高めるのは何のためかというところもありますが、やはり自立するためには困難が伴いますので、我々が日々取り組んでいる中では、自立という言葉を使ってユースワークを組み立てていくことが必要なのではないかと思いました。我々が見ている範囲では、やはり自立し損ねている事例、うまくいわずに苦しんでいる若者が多いと実感しておりますので、それに寄り添っていくことが必要だと感じています。

委員

何のための自立かというところは、もう少しこの中で議論してもいいのかなと思いますね。

委員

部会長が言われるように、こんなに進んでいる自治体はないと毎回思うんですけども、その前提で2点意見を述べさせていただきます。我々は困難を有する子ども達を支援する活動を行っていますが、ユース交流センターのユースワークの視点を入れた居場所づくりや体験型事業に、そのような子ども達が参加できているのか気になっています。我々のところに来ている子どもはユース交流センターに行ったことがないと思いますので、既存の団体との連携や市役所の福祉部局・教育委員会との連携に、よりウイングを広げていくことが必要なんだろうと思いました。我々の団体で取

り組んでいる居場所ともコラボしていけるといいなと思っています。もう1点は、令和5年度の取組で、ユースワーカーの養成に取り組むとありますが、その具体的内容を教えてください。

事務局

1点目の困難を有する子ども・若者への支援についてのご質問ですが、ユース交流センターは、「いくしあ」という困難を有する子どもや子育て家庭を支援する施設に隣接しており、普段から連携を図り、情報も共有しております。委員の施設ともぜひ連携させていただきたいと思っています。2点目の、ユースワーカーの養成に関する御質問ですが、こちらにつきましては指定管理者の事業になりますが、ユースワーカー養成のための研修を実施していただくようお願いしています。昨年の実績で言いますと、市内各地区で1回ずつ合計6回の研修に加え、全国ユースワーカー協議会の方を講師にお招きして2回実施しており、合計8回実施しています。この研修は、市の地域課職員や地域で子ども食堂や居場所づくりに取り組まれている方など子どもを支援する大人も対象にしております。昨年度は8回の実施で約90の方が参加いただいたと報告を受けており、今年度も同様に順次開催しているところです。

ユース交流センター指定管理者

ユースワークが一般に馴染みのない言葉だと思しますので、「ユースワークとは何か」というところから始める地区ごとの研修会と、ユースワークを本格的に学びユースワーカーを目指す人向けに2日間かけてカリキュラムを組んでいるユースワーカー養成講座の2種類実施しています。研修会に参加した人が次のステップとして養成講座を受講することを狙いとして実施しています。

委員

大変充実していて素晴らしいと思いました。

委員

この研修の目的は、ユースワークの担い手を増やすことと理解してよいですか。

事務局

ユースワークを全市展開していく中で、ユースワークの担い手として、市の職員に加え、民間事業者も対象に実施いただいております。実施目的としては、ユースワークへの理解を深めていただき子ども達に接するときの参考にさせていただくことと、先ほど説明がありましたように、ユースワークをより踏み込んだ形で学び、ユースワーカーを養成することを目的に実施しております。

委員

地域活動に取り組まれている方々にもユースワークの観点をお伝えし、市の全市的な取り組みにユースワークを溶かし込んでいくようなイメージですね。

事務局

その通りです。それ以外にも、例えば子ども食堂ネットワークが主催する会議で、子ども食堂を運営されている方々を対象に指定管理者からユースワークの説明を行った事例もございます。

委員

長く地域活動を続けてこられた方々に、ユースワークという横文字の考え方をお伝えすることでハレーションが起きたりすることはありますか。

ユース交流センター指定管理者

これまでのところハレーションは起きていません。むしろ、「私たちがやっていたことはユースワークだよな。」といった形で再認識いただけることの方が多かったような気がします。我々もそのような伝え方をしているので、ユースワーク研修が終わった後、連携して事業を実施するところも増えてきている状況です。

委員

やはりユースワークの狙いや位置付けとして、社会とのつながりの中で自立した市民・主権者に育ち行くことをサポートするなどの位置付けをきっちりすると方向性の軸がぶれないのかなと感じました。ユースワーカー養成講座のところでは、研修や講座を受講されたユースワークの新たな担い手と、専門職としてユースワーカーの線引きというか、関係性や立ち位置はどうなるのだろうと少し気になりました。私は、やはり専門職としてのユースワーカーがユースワークを推進していくことを基本に考えているので、その辺が今後どうなるのか気になったところです。それから、施策評価の目標指標については、ユースワークの視点をどう数値化し、どのように展開させていくのかという辺りを戦略的に考えたいのではないかと思います。施策を推進するために評価指標を作ることと、市民の理解を得ることは異なる観点になると思いますので、うまく使い分けて指標に組み込めていけたらいいと思います。

- 部会長からユースワークの推進を図る評価指標案として「①信頼できる大人がいると感じられるか、②学校家庭以外の居場所があると感じるか、③地域への影響力を発揮できていると感じているか、④意見表明する機会があると感じるか、⑤十分な余暇を享受できているか」の5案がZOOMチャット機能で提案される。

委員

部会長から評価指標案の提案をいただきました。ユースワークの今後を見据える中で、次の段階に進むためのアイデアや検討をこの部会で進めていけたらいいなと思いました。施策評価のところでユースワークの全市展開を課題と捉える中、地域と緊密に情報交換や意見交換をしていくとありましたが、そのためには、地域のいろんな団体とネットワーキングし、手を取り合っていく必要があります。コーディネートが次の課題かなと思いました。今年度、子ども・若者応援補助金の審査員もやらせていただきましたが、高校生や大学生のやりたいことを市がダイレクトに聞いてくれる姿勢を含め、尼崎市は若者に優しい街だと思いますが、それを全市で広く実施していくためには、やはり次はコーディネーター、これは専門職のユースワーカーに求められることかもしれませんが、そうした形でつないでいくことが今後必要ではないかと思いました。

3 ユース交流センターの運営状況について

●資料2に基づき、ユース交流センター指定管理者から説明

委員

ただいまセンター長からユース交流センターの運営状況についてご説明いただきました。特に「ユースワークの推進に向け、市民や地域に対する働きかけ」や「困難を抱える子ども・若者の支援を行う専門機関との連携」について部会意見をいただきたいとのことでした。これに関して、ご意見やご質問があれば発言をお願いします。

委員

困難を抱える若者のところでコメントさせていただきます。我々の運営する居場所に来る子ども達に、ユース交流センターの事業に参加してもらうことは実現可能だと思います。我々の場合はケースワークが中心であってもユースワークの考え方を理解した上で、子どもの声を聴いて色々な取組を始めていますので、そうした取組自体をユース交流センターのスタッフと我々事業者が、事業内容や実践内容をシェアする中で連携していくことは、すぐにでも始められることかなと思いました。特に困難を抱えるお子さんで、大人数や初対面の方が多き場所が難しかったり、発達特性が非常に強いために環境を整えないと安心できないお子さんもおられますので、そういった子ども達は、現場の支援者を一緒に連れて行き、ある種オーダーメイドしながら参画してもらうという方法が最もスムーズではないかと思いました。何かやってみながら、子どもの声を聴いて発展させていくのが一番いいと思いますので、少しずつでも始めていけたらいいと思っています。

ユース交流センター指定管理者

Learning for All さんが、いくしあと共同で教育と福祉を繋ぐ研修を尼崎市で実施されています。私もそれに参加し、ケースワーカーの方達と出会う機会が増えて感謝しています。次のステップに進めたらと思っているところでしたので、是非、Learning for All さんも含めて連携させてもらえたらありがたいと思っています。

委員

私どもも居場所づくりを通じて子どもの支援に取り組んでいますが、専門家による支援は非常に大事だと思う一方で、子どもにずっと寄り添う人はどこにいるのかという問題を感じています。行政が運営する施設は時間が決まっていて、従事者も、この人はこの時間帯にしかいないということになるのが通例ですが、子どもの立場からすると非常に不便です。そのため、我々の居場所では私が常駐する形を取っています。やはり「子どもに寄り添う人はどこにいるのか」という視点が必要ではないかと思います。今、子どもと言いましたけれども、18歳を超えた若者にもそれが必要なんですね。身近にずっと相談できる人がいることはとても大事ですので、そういう大人をどうやって増やしていくのかという辺りがポイントの一つだろうと思います。それに関連して、先ほど部会長がユースワークの評価指標案を示されましたが、私は、大人が子どもをどう見ているのかという項目を加えていただきたいと思っています。大人に対し、「子どもが見えていますか」という問いですね。無関心な大人が多い中、尼崎市では、たくさんの大人が子どもの面倒を見ているという方向を目指すのがいいのではないかと考えています。

ユース交流センター指定管理者

まさに大事な視点だと思います。「子どもに寄り添う人はどこにいるのか」という問いに対し、1つは絶対的な母数が少ない、そういう場所が少ないということが言えます。もう1つは、やっている団体の発信がなかなか届いていない。この2つかなと思っており、今ユースワーカーの研修をやりながらですけれども、母数をどうやって増やしていくのかというところは、もっと加速させたいと強く思います。発信については、まだまだ我々も苦手な領域ですし、どのような発信方法が効果的なのかというところは、引き続き委員のところとも相談させてもらえたら嬉しいなと思っています。

委員

ユースワークの推進に向けた働きかけとして、乳幼児を育てている親を対象に一度ユース交流センターに足を運んでもらう機会を作り、ユース交流センターを知ってもらうことも1つかなと思いました。私たちが管理している施設でも、乳幼児の親子の交流の場、居場所を作っているんですが、子どもがまだ幼いうちからスタッフ、子ども、保護者の三者の信頼関係ができると、後々、子どもが成長して、思春期を迎えて親子関係がギクシャクした時に、スタッフが子どもに寄り添ったり、時には親のフォローもしながら親御さんと共に子どもと向き合う、子どもを見守るような立ち位置でいることも可能になるのではないかといった話をしています。次に、困難を抱える子ども・若者の支援については、困難のサポートを大事にしながらも、その子のやりたいことを引き出していくような目線を持って関わっていくことも大事だと思います。また、ユース交流センターのサテライト事業や学校や地域との連携に必要な人件費や経費などについては、市の方で予算面の対処をしていただけたらと思います。

委員

具体的なアイデアから予算措置まで多岐に渡ってありがとうございます。ユース交流センターで子育て期の方に関わってもらうためにコーディネーションを行うと、若者と関わる時間が減ってしまうこともありますので、運営側と現場で若者と関わるプレイヤー側が分担しながら、できることを優先順位を付けてやっていくのが現実的なんだろうと思いついて伺いました。

部会長

ユース交流センターの指定管理者として、センターの取組について SNS 等を活用して情報発信され効果を上げていますが、そうした発信事業も含め地域にアウトリーチしていくことを一つの大きな事業として位置付けていかないと現場が回っていかないとしますので、手厚く対応していく必要があるのではないかと思います。次に、先ほどご意見をいただいた子どもに寄り添う大人の存在についてですが、やはり地域で見守る人、特に相談できる人を増やしていく必要があります。尼崎市全体でユースワークを理解している大人を増やしていく戦略だと思うんですけども、それは素晴らしいなと思うんですね。一方、「今の若者はこんな感じだよ」というのを共有する機会もそうですし、ユースワークを知る機会もそうなんですけれども、市の子ども・若者施策を大人も子どもも含め、みんなで考えるという風になると、もっと開けた自治ができると思います。そうすることで、ある意味ユースワークもそうなんですけれども、市民と一緒に考える、自分ごととして考えることにつながってくると思うんですね。その際、中立的にやるのが非常に大事です。特定の政治家や政党が前面に出てし

まうと、そちらを支持していない人が参加しづらくなってしまいます。そうした機会をオフィシャルに作ることは民主的にガバナンスを機能させる意味でも大変重要と思いました。それから困難を抱える子ども・若者の支援に関しては、子ども・若者支援地域協議会という内閣府が作った枠組みがありますが、協議会を作るメリットとしては、事例検討がしやすくなるくらいで、あまり機能していない自治体も見られます。また、児童養護施設との連携に関しては、ユース交流センターが所在するひと咲きプラザ内に置けない事情は理解しつつ、その辺の連携も必要になってくるだろうと思いました。最後にユースカウンスル事業についてですが、ユースカウンスルの今後の展開を考えた時に十分な予算が付いてるのかなというのが気になりました。ユースカウンスルに若者の能力形成の機会があり、資源が付いているかというのもヨーロッパの若者政策の指標として入っていますので、参考にしていただけたらと思っています。

委員

皆さんも懸念されているようにユース交流センターのオープンから年数も経ってきて、体制面や従事職員の疲労感は課題になるかもしれませんので、センター長を含め現場職員のケアはぜひお願いしたいと思いました。もう一つは、子ども家庭庁で尼崎がグッドプラクティス（優れた取組）だと取り上げられる機会が増えており、これは素晴らしいことだと思います。一方、いろんな事情で予算を削らなければならなくなった時に、尼崎モデルのユースワークを進めていくうえで絶対に削ってはいけない要素は何かというコア部分を見出して国に発信することも重要ではないかと考えています。ユースカウンスル、ユースワークの全市展開、ユースワーカーの養成の3つをセットで進めていることは本当に素晴らしいことですが、同時に高コストでもあると思っています。どの自治体も真似できるものだとは思いませんので、今後、重要な課題になるかなと感じました。

委員

これだけ進んでいる尼崎だからこそ、このメンバーで議論が進めていけるといいですね。今後に向けた視点をたくさん出していただきました。本日の議論を踏まえて事務局及びユース交流センターから何かありましたらご意見をお願いいたします。

事務局

本日は短い時間の中で活発に御議論いただき、また貴重な御意見もたくさんいただきましてありがとうございました。本日、ユースワークの全市展開の必要性やユースワーカーの養成に加え、私どもの政策指標についてのご意見もいただき、大変参考になりました。予算のお話もいただきましたが、私ども指定管理という枠組みの中で、ユース交流センターの指定管理者の皆さんに本当に頑張っていると思っています。行政の役割としては、予算面や体制面でうまく回っていくように環境を整えていくことが重要と考えております。予算、財源の確保という点では所管課の思い通りにならない部分もありますが、できる限り頑張っていきたいと思っていますし、ユース交流センターがより良い施設となるよう指定管理者の皆さんと共にユースワークを一層進めていきたいと考えております。

ユース交流センター指定管理者

いろいろと貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。この部会では毎回大きなテーマで

のご意見をいただきながら、各論の細かいところまでご助言いただけることを大変ありがたく思っています。毎回、いただいたご意見を持ち帰ってスタッフと共有しながら進めていったのが、今の尼崎モデルだと思っています。引き続きご助言をお願いいたします。

委員

最後に事務局から連絡事項等ありますでしょうか。

事務局

本日、部会でご協議いただいた内容については、全体会へのフィードバック、報告が必要だとの認識でおりますが、もう1つの部会、子ども・若者応援補助金審査部会の動きもございまして、そちらの補助金に係る成果発表会を令和6年2月から3月にかけて実施する予定としています。今後の進め方として、両部会の報告を全体会にフィードバックする予定としておりますので、しばらく間隔は開くかもしれませんが、よろしくお願いいたします。

委員

ちょっと時間が開くということですよ。これだけのメンバーが揃っていますので、事務局で何か疑義があれば、ぜひ部会メンバーにお声かけいただけたらと思います。それでは、本日の議事は全て終了しました。部会長にマイクをお返しします。

部会長

副部会長には素晴らしい進行をいただきまして、ありがとうございました。また、部会員の皆様には、本日は有益な御意見をたくさん頂戴し、感謝いたします。これを持ちまして、本日の部会を終了します。

閉会

以上